

策定年月	令和5年4月
見直し年月	令和 年 月

# 麦・大豆国産化プラン

産地名：長野県北安曇郡松川村

（作成主体：松川村農業生産組合）

## 1. 麦・大豆生産の現状と課題及び課題解決に向けた取組方針

農事組合法人 松川村農業生産組合は、松川村の転換作物の大半を請け負っており、約 61 haを担っています。

品目は、大豆、小麦、そば、加工用米を作付してきたが、本年度は飼料用米の取組みも行った。

品種は、小麦は「しゅんよう」、大豆は「すずほまれ」で、より高品質な大豆を安定生産するために、J A大北、県試験場、農業農村支援センターと連携し、栽培技術の向上に取り組んでいる。

課題としては、小麦は、難防除対策・連作障害により品質、収量の低下が考えられる。また、大豆においては、収穫適期になっても落葉せずに茎が枯れずに青立ちが多く、汚粒が発生する。また、霜が来る 11 月中旬ごろまで収穫を待つと裂莢してしまい減収となる。

対策としては、小麦については、ほ場の集約を図り、機械作業での効率化、早期播種による収量の増加、梅雨期の短期、適期収穫による品質向上に努める。大豆は、現在の品種と特性が同等で青立ちしにくい新品種への転換を行い、連作による収量低下を改善するためブロックローテーションの再構築などにより収量と品質の向上に努める。

来年度においては、そばから大豆へ 5 haの転換を計画しており、松川村水田収益力強化ビジョン、松川村農業再生協議会により、水田フル活用の推進に取り組んでいるが、本計画において大豆の生産性向上、生産拡大に係る取組みをより具体化するとともに関係者の連携を強化し、地域の農業の更なる活性化を図っていく。

※ 麦・大豆生産における課題(湿害対策、適期播種、土づくり、連作障害対策等の必要性等)を具体的に記載すること。

※ 課題解決に向けて取り組む内容及び今後の生産拡大に向けた方針を具体的に記載すること。

## 2. 産地と実需者との連携方針

産地を形成するうえで、早期の播種、適期収穫、湿害対策、病虫害防除の徹底、輪作の推進を図り、品種転換することにより、収量が改善され、栽培面積の増加を図っていく。

小麦は現状 18,072 kgの生産量であるが、安定的な供給が望まれる中で、目標値を 24,750 kgとし、実需者（小麦食品製造業者 A）、のニーズを反映した望ましい品種構成を検討していく。

また、大豆は大豆食品製造業者 B から供給量の増加の要望もある中で、現状の 14,469 kgから 24,200 kgを目標値とする。また、品種転換することに同意を得ることで増産を図り、安定した需要の下で生産・販売体制づくりを進め、利用拡大に向けた取り組みを計画的に進めていく。

《実需者 大豆食品製造業者 B）の現状と目標値》 ※JA を通じて全量出荷予定

品 目	現状値 (R4 年度)	目標値 (R7 年度)
小 麦	18,072kg	24,750kg
大 豆	14,469kg	24,200kg

※ 産地と実需者については具体的な名称を記載すること。

※ 麦の実需者は、麦を原料とした加工品等の製造を業とする者(製粉会社、製パン会社、製麺会社等)とする。

※ 大豆の実需者は、大豆を原料とした加工品等の製造を業とする者、大豆の販売を業とする者及びこれらの者が組織する法人その他の団体とする。

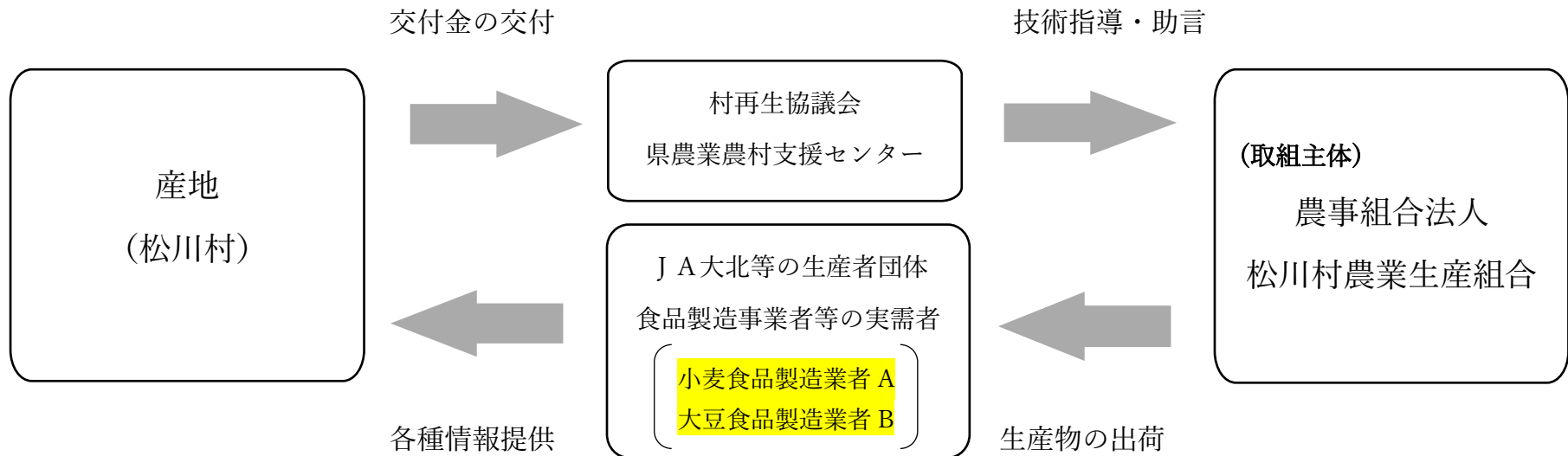
なお、販売を業とする者を実需者とする場合は、その者が販売する先(最終実需者)について、代表的な者の名称を記載すること。

※ 産地と実需者それぞれの国産麦・大豆取扱量の現状とおおむねの目標値を記載すること。

### 3. 麦・大豆の国産化に向けた推進体制及び各関係者の役割

小麦、大豆の生産・利用拡大に向けて、村再生協議会、県農業農村支援センターやJ A大北等の生産者団体、食品製造事業者等の実需者が連携して問題意識を共有し、一体となって計画的に取組を進めていく

実需者に対する松川村産大豆の宣伝・P R活動を実施するとともに、地元実需者や学校給食への利用促進及び直売所における販売により消費拡大を図る。



※ 産地と実需者との連携について、図等を用いて明示すること。

※ 取組の中心となる農業者等を必ず位置付けること。